

食品安全情報（化学物質） No. 10/ 2021 (2021. 05. 12)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

<注目記事>

【FDA】 FDAは「ヘルシー」シンボルに関する消費者研究の手続き通知を発表

米国食品医薬品局（FDA）は、栄養含有強調表示「ヘルシー（healthy）」を表すために将来的に使用される可能性のあるシンボルマークについて、消費者を対象とした予備的な定量調査を行う予定であり、その手続き通知を発表する。米国では、ペーパーワーク削減法のもと、連邦政府機関が提案する情報収集は逐一連邦官報に掲載し、一般市民に意見提出の機会を与えることが義務付けられている。そのため、定量調査の手続きの内容について60日間意見を募集する。

*ポイント： 米国FDAは、数年前から「ヘルシー」の定義の見直しを行っていて、シンボルマークの検討はそれに付随する案件です。この記事を読んで個人的に興味深かったのは、米国には市民に負担となるペーパーワークの削減を目指した法律があり、その法律に基づき、FDAなどの連邦政府機関が消費者を対象にした情報収集を行う場合には、その情報収集が当該機関の業務に必要なのか、提案されている情報収集の方法は妥当なのか（消費者への負担の見積もりは正確か）、収集される情報の質をあげるためにはどうすれば良いか、といった、情報収集の方法論に関する意見募集の機会が設けられているという点です。

【ANSES】 内分泌かく乱物質の評価を加速する

フランス食品・環境・労働衛生安全庁（ANSES）は、第2回内分泌かく乱物質国家戦略（SNPE 2）の一環として、内分泌作用の可能性をもとに重要と考えられる906物質のリストを作成し、内分泌かく乱物質としての特性について詳細な評価が必要と考えられる16優先物質を特定した。また、評価結果をもとに、内分泌かく乱物質としての確実性に応じて3段階に分類するための方法を開発した。

*ポイント： フランスはEU諸国の中でも特に内分泌かく乱物質の規制に注力している国です。SNPE 2は2019-2022年の計画なので、選ばれた優先物質は今後2年間にANSESが評価を行う可能性のある物質になります。

【BfR】 消費者健康保護：大部分の人は科学を信頼している

ドイツ人の約2/3は消費者の健康を守るのに科学を信頼していることが、ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)の最新の消費者モニターの結果からわかった。対象は、16歳以上の個人世帯に住むおよそ1,000人。回答者の22%が自発的に言及した最大の健康リスクは、食品中の糖、脂肪、塩の高含有など特定の栄養群である。不健康な食事とライフスタイル(13%)や、食品中の望ましくない物質や添加物(それぞれ11%)が大分離れて続く。

選択されたテーマについて尋ねると、最大の関心事は食品中の抗生物質耐性やマイクロプラスチックで、57%が抗生物質耐性を、54%が食品中のマイクロプラスチックを懸念している。しかし、自らの家庭の食品衛生についての懸念は比較的少ない。科学的観点からすると、家庭の食品衛生の欠如が食中毒の主な原因の1つである。

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【WHO】](#)

1. 第4回 WHO インフォデミック管理会議：公衆衛生のためのソーシャルリスニングの進歩
2. 水銀に関する水俣条約：WHO 情報の文献目録

[【FAO】](#)

1. 新しい FAO の出版物：オーガニック食品－それはより安全か？
2. Codex

[【EC】](#)

1. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【EFSA】](#)

1. 農薬の累積暴露評価の結果に関する優先順位付け方法の潜在的な影響
2. オープン MCRA の実行可能性調査
3. 欧州の将来のリスクコミュニケーションを刺激するための EFSA の報告書
4. 提案：EFSA の危機管理の必要性に対処するための複数年(2021 - 2024 年)の訓練パッケージ
5. 新しいゲノム技術により開発された植物のリスク評価に関する EFSA と欧州国立機関の科学的意見の概要
6. ベイズ理論でのメタ分析、生理学的モデリング、*in vitro* システムを用いたトキシコキネティックおよびトキシコダイナミックプロセスのヒトの変動制モデリング
7. 食品酵素関連
8. 飼料添加物関連

[【ASA】](#)

1. 年次報告書 2020－若者と脆弱な人々を守る
2. ASA 裁定

[【BfR】](#)

1. 消費者健康保護：大部分の人は科学を信頼している

[【ANSES】](#)

1. 内分泌かく乱物質の評価を加速する
2. フランス人のためのビタミンとミネラルの新しい食事摂取基準を発表

[【FSAI】](#)

1. FSAI は組成変更の監視のためのヨーグルトの栄養表示使用を評価する新たな報告書を発表する
2. FSAI は大麻を含む食用製品（菓子）に警告を発する
3. リコール情報

[【FDA】](#)

1. 急性非ウイルス性肝炎調査-「リアルウォーター」ブランドのアルカリイオン水
2. よりスマートな食品安全新時代テックトークポッドキャスト
3. FDA は「ヘルシー」シンボルに関する消費者研究の手続き通知を発表
4. 公示
5. 警告文書

[【EPA】](#)

1. EPA の Regan 長官は新しい PFAS 評議会を設定
2. EPA は環境正義を推進するために有害化学物質排出目録を更新する計画を発表

[【USDA】](#)

1. USDA は遺伝子組換えを用いて開発したトウモロコシの規制解除のための環境影響声明を準備する意向通知にパブリックコメント募集
2. USDA の科学が食品廃棄を減らす 5 つの方法

[【FTC】](#)

1. FTC は議会で COVID-19 詐欺を抑制するための FTC の仕事について証言し、消費者にパンデミック関連詐欺やごまかしについて警告する

【FSANZ】

1. 食品基準通知

【MPI】

1. 野菜を舞台の中央に立たせる新たな食品技術

【NZEPA】

1. グリホサート：情報要請

【香港政府ニュース】

1. 窒素 - 包装用ガスとその先
2. 警告
3. 包装冷凍 bigeye fish のサンプルにポンソー4R が検出され、食品表示規則に違反する
4. 違反情報

【SFA】

1. Nanyang 工科大学シンガポール、シンガポール食品庁及び科学技術研究庁 (A*STAR) は食品安全科学においてシンガポールの能力を構築するために将来に備えた食品安全ハブ(FRESH)を開始する
2. 表示及び包装情報—食品および栄養表示の理解

【その他】

- ・ ProMED-mail 1件
- ・ Erekalert 2件

● 世界保健機関 (WHO : World Health Organization) <http://www.who.int/en/>

1. 第4回 WHO インフォデミック管理会議：公衆衛生のためのソーシャルリスニングの進歩

4th Virtual WHO Infodemic Management Conference: Advances in Social Listening for Public Health

4 May 2021

<https://www.who.int/news-room/events/detail/2021/05/04/default-calendar/4th-virtual-who-infodemic-management-conference-advances-in-social-listening-for-public-health>

5月4-12日にオンライン開催。

この会議では、研究と実践の異なる分野の専門家が集まり、公衆衛生のためのデジタルソーシャルリスニングの手法を前進させるための教訓を話し合う。より適応的で効果的な公衆衛生の緊急対応を実現するために、コミュニティの疑問、懸念、語り口の変化を検知するソーシャルリスニングの手法をチームで開発することが必要とされる。

ソーシャルリスニングとは、ソーシャルメディアデータを使って人々の意見を推し量る手法である。ソーシャルメディアのデータは、懸念が増幅されたり、有害な行動につながる前に、世論を測定し、より人間中心のコミュニケーション戦略や関与の戦略の設計に役立つ。

2. 水銀に関する水俣条約：WHO 情報の文献目録

Minamata Convention on Mercury: annotated bibliography of WHO information

6 May 2021

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240022638>

「水銀に関する水俣条約」および関連する世界保健総会決議 WHA67.11 「水銀および水銀化合物への暴露による公衆衛生上の影響：水俣条約の実施における WHO および公衆衛生省庁の役割」に関連する WHO の主要情報資源の注釈付き文献目録。

7.9MB ダウンロード可

● 国連食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations)

<http://www.fao.org/>

1. 新しい FAO の出版物：オーガニック食品ーそれはより安全か？

New FAO publication: Organic foods – Are they safer?

31/03/2021

<http://www.fao.org/food-safety/news/news-details/en/c/1392279/>

オーガニック食品はしばしば消費者から健康的で美味しくて環境に優しいと見なされるが、その認証は必ずしも安全な食品と同義ではない。オーガニックはその製品がある種の基準に従って作られたことを指し、最終製品の性質や特徴のことではない。

2021年3月にFAO アジア太平洋事務局は「オーガニック食品ーそれはより安全か？」と題する小冊子を発表した。

オーガニックラベルは合成肥料や農薬の使用を禁止あるいは制限する規則に則り、それは消費者にとって魅力的な特徴の一つだが、植物が合成した農薬は使用でき、それらも高用量ではヒトの健康に有害影響があるかもしれない。既存の有機認証に食品安全対策を含めることと有機農業は安全な食品の同義語ではないことを啓発することが、賢明な食品選択推進の重要な一歩である。食品の安全性を保証しつつ有機農業を実施するにはどうすればいいのかの事例がこの小冊子に含まれる。

* FAO Food safety toolkit booklet 6: Organic foods – Are they safer?

<http://www.fao.org/3/cb2870en/cb2870en.pdf>

2. Codex

● コーデックスにおける獣医師／食の安全への重要な貢献

Veterinarians in Codex / a critical contribution to food safety

23/04/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1396405/>

2021年4月24日、世界獣医デー

獣医師は伝統的に、消費者の利益のために食品の安全性を高め、維持するという重要な役

割を担っている。食料生産と供給の変化、新しく出現した細菌、毒素、抗菌剤耐性などは、短時間で大量の食品の安全性に影響を与える。獣医師の役割は歴史の中で変化し、現在では食用動物生産者への廃棄物管理の指導、水路や環境の保護、動物由来食品の安全性確保など、フードチェーンのあらゆる側面に積極的に関わっている。

獣医師らはコーデックスの開設時から参加しており、特にメンバーが多い残留動物用医薬品部会に多大なる貢献をしている。

- **最初のバーチャル会合が新しいスパイスのコーデックス規格の採択を諮る**

First virtual session sees new Codex spices standards ready for adoption

29/04/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1397223/>

コーデックススパイス・料理用ハーブ部会（CCSCH）が、2021年4月20日から29日にバーチャル形式で開催され、60ヶ国以上が参加した。今次会合では、オレガノ、ショウガ、クローブ及びバジルの規格案の最終採択を総会に諮ることとなった。

*CCSCH5

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings/detail/en/?meeting=CCSCH&session=5>

- **第14回コーデックス食品汚染物質部会 / バーチャルで参加する**

CCCCF14 / Taking part virtually in Codex meetings

06/05/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1398018/>

2021年5月3日から7日まで（レポート採択5月13日）、オランダをホスト国とする食品汚染物質部会（CCCCF）がバーチャル形式で開催される。

*CCCCF14

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings/detail/en/?meeting=CCCCF&session=14>

- **欧州委員会（EC : Food Safety: from the Farm to the Fork）**

https://ec.europa.eu/food/safety_en

1. **食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）**

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

25/04/2021~08/05/2021 の主な通知内容（ポータルデータベースから抽出）

* 基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

* RASFF へ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

オーストリア産食料品ではない一般的なセントジョーンズワート(セイヨウオトギリソウ)、ナイジェリア産チリペッパー粉末の未承認着色料オレンジII (>0.50 mg/kg)、ギリシャ産オレンジのクロルピリホス(0.06 mg/kg)、エクアドル産冷凍エビの串焼きの亜硫酸塩非表示、ドイツ産フードサプリメントのβカロチンの含有量増加、エジプト産ディルの葉芽のクロルピリホス(0.18±0.088、0.17±0.087 mg/kg)、インド産有機グアアの未承認物質エチレンオキシド(3.2 mg/kg)、オランダ産スパイスペーストの未承認物質エチレンオキシド(1.8 mg/kg ; 0.27 mg/kg ; 0.19 mg/kg)、ドイツ及びオランダ産オランダから発送した米粉のアフラトキシン B1(5.7±2.5 µg/kg)、フランス産クルクマの不適格分析結果(ETO 含有)、フランス産グリーンペッパーの不適格分析結果(エチレンオキシド 1.89 mg/kg 含有)、シリア産ゼリーミニカップの窒息リスク、インド産グアアガムのエチレンオキシド(0.57 mg/kg)、ウズベキスタン産リトアニア経由レーズンのオクラトキシン A(17.7±1.8 µg/kg)、エジプト産オレンジのクロルピリホス-エチル(0.027 ± 0.013 mg/kg)、スペイン産カニの亜硫酸塩非表示及び添加物法違反(132 mg/kg)、ゴマ種子のエチレンオキシド、タイ産オランダ経由センノシド高含有茶、中国産有機スピルリナ粉末のエチレンオキシド(0.068 mg/kg)、スロバキア産有機トウモロコシウエハースのフモニシン(B1 と B2 の合計 : 1016±127 µg/kg)、スイス産フードサプリメントの高濃度のデルタ-9-テトラヒドロカンナビノール (デルタ-9-THC) (1.04 ± 0.31 g/kg)、トルコ産ドイツ経由乾燥イチジクのオクラトキシン A(66.5 µg/kg)、エジプト産ブドウの葉のクロルピリホス(0.045 mg/kg)、ガーナ産オランダ経由パーム油のベンゾ(a)ピレン、オランダ産スペルト小麦の未承認物質クロルピリホス-メチル(0.028 mg/kg)、イタリア産梨の高濃度のクロルメコート(7.4±3.7 mg/kg)、オランダ産ミニキュウリのカルベンダジム(0.33 mg/kg)、中国産有機ソバの過剰濃度のアフラトキシン(B1=32.7 µg/kg、total=38.0 µg/kg)、インド産オオバコフレークのエチレンオキシドの検出(102 mg/kg)、ポルトガル産パプリカ粉末のオクラトキシン A(43.7 ± 10.5 µg/kg)、ガーナ産パイナップルのエテホン(3.4 mg/kg)、イタリア産生きたホネガイ(*Bolinus brandaris*)のカドミウム(1.5 ± 0.3 mg/kg)、トルコ産塩水入りブドウの葉のトリアジメノール(0.038 mg/kg)、インド産有機アマランスのエチレンオキシド(15 mg/kg)、イスラエル産バジルのクロルピリホス(0.027

mg/kg)、など。

注意喚起情報 (information notification for attention)

シリア産酢漬けのカブのローダミン B(10 mg/kg)、コートジボワール産チルドブリ (*Seriola carpenteri*)フィレの水銀(0.7 ± 0.11 mg/kg)、ラオス産パセリのクロルピリホス(0.032 mg/kg)・残留農薬(0.04 mg/kg)・未承認物質フィプロニル(0.013 mg/kg)・未承認物質ヘキサコナゾール(0.039 mg/kg)・ルフェヌロン(0.074 mg/kg)および未承認物質フェントエート(0.008 mg/kg)、イラン産ディルの未承認物質カルベンダジム(0.65 mg/kg)・クロルピリホス-メチル(1.1 mg/kg)およびテトラコナゾール(0.055 mg/kg)、エジプト産ペッパーの未承認物質クロロタロニル(0.31 mg/kg)、インド産飼料添加物用原料のテトラサイクリン(174 / 84 / 81 / 45 mg/kg)、パキスタン産レーズンのオクラトキシン A(99.8 µg/kg)、シンガポール産カイエンヌペッパーのアフラトキシン B1(9.0 µg/kg、8.8 µg/kg)、中国産フードサプリメントの未承認物質タダラフィル(147 g/kg)およびシルデナフィルチオノ類似物(244 g/kg)、ドイツ産イヌ用ペットフードのクロルピリホス(0.057 mg/kg)、スペイン産メカジキの水銀(1.6 ± 0.4 mg/Kg)、チェコ共和国産未承認遺伝子組換えグリーンパパイヤ、エジプト産デーツのカルベンダジム(1.1 mg/kg)、タイ産スイートバジルの高濃度のクロルピリホス(0.4 g/kg)、イタリア産原料スペイン産スロベニア経由解凍イカのカドミウム(1.5 ± 0.3 mg/kg)、トルコ産クミンのピロリジンアルカロイド(10406.94 µg/kg ; 10906.77 µg/kg)、スペイン産解凍キハダマグロの水銀(1.6 mg/kg)、トルコ産オランダ経由生鮮グレープフルーツのクロルピリホス(0.23 ± 0.11 mg/kg)、ベトナム産冷凍カエルの足の禁止物質ニトロフラン(代謝物質)フラゾリドン(AOZ)(27 (± 6.9) µg/kg)、フランス産メカジキのカドミウム(0.38 mg/kg)及び水銀(2.4 mg/kg)高含有、産出国不明エビの未承認物質クリスタルバイオレット(1.21 µg/kg)、など。

フォローアップ用情報 (information notification for follow-up)

オランダ産鳥用飼料のカンタキサンチン、産出国不明フードサプリメントの未承認新規食品成分イカリソウ、中国産生鮮梨のクロルピリホス(0.023 ± 0.012 mg/kg)、タイ産オランダ経由センナの葉と果実を含むラノン茶の未承認市販、産出国不明キャンディーのトランス脂肪酸高含有(3.57 ± 0.12 g/100g)、セネガル産未承認新規食品バオバブの種子、ドイツ産フードサプリメントの5 HTP、ベルギー産鳥用飼料のカンタキサンチン、エジプト産オレンジのクロルピリホス-エチル(0.030 (± 0.015) mg/kg ; 0.041 mg/kg)、タイ産センナの葉と果実を含むハーブ抽出液の未承認市販、など。

通関拒否通知 (border rejection notification)

英国産ニオイテンジクアオイ抽出物含有飲料、トルコ産生鮮ペッパーのピリダベン(1.512 ± 0.756 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのクロルピリホス-メチル(0.096 ± 0.048 mg/kg)及びテブフェンピラド(0.162 ± 0.081 mg/kg)、中国産ゴマ種子のエチレンオキシド(0.31 ± 0.15 mg/kg)、ウガンダ産ペッパーの未承認物質カルベンダジム(0.88 ± 0.44 mg/kg)および未承認物質プロフェノホス(0.026 ± 0.013 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのホスチアゼート(0.260 ± 0.130 mg/kg)、セネガル産ピーナッツバターのアフラトキシン(B1= 9.4 µg/kg、total= 10.7

μg/kg)、イラン産ピスタチオの規制値超過のアフラトキシン(total= 14.7 μg/kg、B1= 12.0 μg/kg)、インド産ピーナッツ穀粒のアフラトキシン(B1= 16 μg/kg、total= 17 μg/kg)、ボリビア産ピーナッツのアフラトキシン(B1=9.5 および 4.4 μg/kg、total= 11 μg/kg)、イラン産トルコから発送したピスタチオのアフラトキシン(total= >24.0 μg/kg ± 25.9 % μg/kg、B1= >24.0 μg/kg ± 20.4 % μg/kg)、エジプト産ザクロの未承認物質シフルトリン(0.16 mg/kg)、トルコ産ペッパーのテブフェンピラド(0.476±0.238 mg/kg)、ベトナム産乾燥ホンダワラ及び乾燥アイリッシュモスの未承認新規食品成分(海藻)、ジョージア産ヘーゼルナッツのアフラトキシン B1(9.79±2.45 μg/kg)、エジプト産生鮮オレンジのクロルピリホス(0.022±0.011 mg/kg ; 0.023 ± 0.012 mg/kg)、エジプト産ピーナッツのアフラトキシン(B1= 20 μg/kg、total= 23 μg/kg)、アルバニア産イチゴのテブコナゾール(0.090 ± 0.045 mg/kg)、エジプト産生鮮オレンジのクロルピリホス(0.082±0.041 ; 0.084±0.042 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのクロルピリホス-メチル(0.166±0.083 mg/kg ; 0.672±0.336 mg/kg ; 0.192±0.096 mg/kg ; 0.112 ± 0.056 mg/kg ; 0.209±0.105 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのホルメタネート(0.824±0.412 mg/kg ; 0.491±0.246 mg/kg)、米国産ピスタチオのアフラトキシン(B1=48 μg/kg、total=56 μg/kg)、イラン産ピスタチオのアフラトキシン(36.5±14.6 μg/kg、B1=34.9 ± 14.0 μg/kg ; 18.5 ± 7.4 μg/kg. B1=6.8 ± 6.7 ; B1=13.6 ± 5.4 μg/kg ; B1=34.79 μg/kg、total=36.85 μg/kg ; B1=34.0 μg/kg、total=35.9 μg/kg)、パキスタン産有機デーツの過剰のアフラトキシン B1 (5.2 μg/kg)、スリランカ産煎ったチリ粉末のアフラトキシン(B1 = 22.1 ±9.7 μg/kg)、エジプト産ピーナッツのアフラトキシン (B1=15.4±6.2 μg/kg ; B1=7.8 μg/kg. total=9.2 μg/kg)、ウガンダ産ホットペッパーのクロルピリホス(0.012 mg/kg)、米国産アーモンドのアフラトキシン(B1 <0.5 μg/kg、B1=<2.0 μg/kg μg/kg)、インド産ゴマ種子のエチレンオキシド(0.71 mg/kg)、オーストラリア産アーモンドのアフラトキシン(B1=>24 μg/kg ; B1=10 μg/kg、total=>24 μg/kg)、ウガンダ産チリペッパーのシペルメトリン(1.2 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのホルメタネート塩素酸塩(0.037±0.019 mg/kg)及びホスチアゼート(0.121±0.061 mg/kg)、中国産竹及びポリマー樹脂製の食品と接触する物質、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン(B1=26.7 μg/kg、total=30.1 μg/kg)、ガイアナ産エビの着色料コチニール(E120)の未承認使用(22 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのアセタミプリド(0.630±0.315 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのピリダベン(0.879±0.440 mg/kg)、など。

● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu/>

1. 農薬の累積暴露評価の結果に関する優先順位付け方法の潜在的な影響

Potential impact of prioritisation methods on the outcome of cumulative exposure assessments of pesticides

(外部科学報告書)

この報告書では農薬の累積暴露評価の結果に関する優先順位付け方法の潜在的な影響を述べている。この方法は累積評価グループ(CRAs)設定の面倒な作業を減らすことを目的としている。優先順位付け方法は2段階からなる: 1)優先順位の低い物質の同定、2)優先される臓器の同定。第1段階は、神経系の急性影響や甲状腺への慢性影響に関する単一物質のハザード比(HQ)の閾値に基づき、優先順位の低い物質の同定を目的としている。このために、210物質と10調査での慢性と急性のHQsの確率論的計算が行われた。4つの異なる閾値、すなわち、暴露の99パーセンタイルでHQ 0.1以上、または暴露の99.9パーセンタイルでHQ 0.01、0.1、0.2以上、で優先される農薬が維持されていた。第2段階では、神経系と甲状腺の評価グループ(AGs)が集められ、これらの臓器で得たリスク指標が特定の影響でより高次AGsのリスクと比較された。標的臓器レベルでの重大影響を用いたAGsのリスク評価(すなわち物質の健康影響に基づく指標値を用いる)は実現可能と結論づけられた。優先順位付けの閾値が対象となる臓器レベルでのAGsに、また、特定影響レベルでのAGsに適用された。物質を保持するために99.9パーセンタイルでHQ 0.1以上の優先順位付けの閾値がこれらのAGsに利用できた。それは、総暴露マージンに実質的な影響を与えることなくAG神経系の物質の数を50%に、AG甲状腺の物質の数を70%に減らした。結論として、この優先順位付け方法は、高レベルの保護を提供しながら、CRAを簡素化するために使用でき、費用対効果の高いアプローチに貢献する可能性がある。

2. オープンMCRAの実行可能性調査

Feasibility study Open MCRA

(外部科学報告書)

複数の暴露経路を介した複数の化学物質への複合暴露のリスクを評価するためのモンテカルロリスク評価(MCRA)ウェブプラットフォームで実行されたモデルの、透明性と利用しやすさを改善するための実行可能性調査の結果が示された。

3. 欧州の将来のリスクコミュニケーションを刺激するためのEFSAの報告書

EFSA reports set to inspire future risk communications in Europe

29 April 2021

EFSAが本日発表した4つの新しい報告書は、将来のEU域の食品安全「リスクコミュニケーションの基本計画」の形成に役立つ膨大な技術的情報や最優良事例を提供する。

透明性規則(2019/1381)により、EU の食品安全リスク評価者や EU と国家レベルのリスク管理者による、リスクコミュニケーションの総合的枠組みを求める新たな規定が導入された。

1. リスクコミュニケーション分野の技術的支援に関する EFSA の科学的報告書

Technical assistance in the field of risk communication

EFSA Journal 2021;19(4):6574 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6574>

2. EU の飼料/食品に関するリスクコミュニケーションの調整と協力のメカニズムのマッピング

Mapping the coordination and cooperation mechanisms of risk communication on feed/food safety in the EU

EFSA Journal 2021;19(4):e190401 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/e190401>

3. コミュニケーションツールと普及ガイドラインのカタログ: EU 及び加盟国団体の現在の実践のベンチマーキング

Catalogue of Communication Tools and Dissemination Guidelines: benchmarking current practice in EU and Member State bodies

EFSA Journal 2021;19(4):e190402 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/e190402>

4. 関与ツールキット: 効果的な参加型プロセスをデザインするための手段、ヒント、最優良事例

Engagement Toolkit: Methods, tips and best practices to design effective participatory processes

<https://www.efsa.europa.eu/sites/default/files/documents/engagement-toolkit.pdf>

EFSA のコミュニケーションチームは、作業慣習を改善し、資料と教育プログラムに関連した最優良事例リスクコミュニケーションハンドブックを見直すことを視野に入れ、この報告書でわかった豊富な調査結果をレビューしている。科学的リスク評価の 2 つの基本的概念である「ハザード」と「リスク」の違いをオーディエンスに理解させる社会調査プロジェクトも計画している。

4. 提案: EFSA の危機管理の必要性に対処するための複数年(2021 - 2024 年)の訓練パッケージ

Proposal: Multi - annual (2021 - 2024) training package to address EFSA's crisis preparedness needs

EFSA Journal 2021;18(4):EN-6567 28 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-6567>

(外部科学報告書)

EFSA の全体的及び具体的な目的を満たす 4 年間の危機管理の訓練パッケージを設定することを目的とする。

年に 1 回の「外部」と「内部」の訓練イベントを設計するための明確な枠組みが提案された。提案されている訓練方法は、教育的なブリーフィング、全体会議や小グループでのネットワーク形成や議論の機会、現実的シナリオを使ったシミュレーション演習などを含む。すべての活動は、全体的な戦略テーマである「信頼された透明性のある対応 (Trusted Transparent Response)」の下で行われる。

5. 新しいゲノム技術により開発された植物のリスク評価に関する EFSA と欧州国立機関の科学的意見の概要

Overview of EFSA and European national authorities' scientific opinions on the risk assessment of plants developed through New Genomic Techniques

EFSA Journal 2021;19(4):6314 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6314>

(科学的報告書)

欧州委員会は EFSA に、以前の科学的意見やこの話題に関する進行中の作業、入手可能であれば 2012 年以降管轄機関や国立機関が発表した意見を考慮して、新しいゲノム技術 (NGTs) で開発された植物のリスク評価に関する概要を提出するよう求めた。

この報告書の中で NGTs は、生物の遺伝物質を変え、2001 年の遺伝子組換え生物 (GMO) 法の採択以降出現または開発できた技術と定義されている。EFSA は欧州加盟国 (MS) が発表した 16 の科学的意見や、EFSA GMO パネルの NGTs に関する 3 つの科学的意見を検討した。MS の意見を評価・要約するための調達が行われた。各 NGT の説明の関連情報や、定義された NGTs の 1 つまたは組み合わせから開発された植物のリスク評価に関する情報が抜粋され、要約された。この報告書に含まれるはずの NGTs の種類や性質のベースラインは、この委任のために欧州委員会が提出した NGT 定義を考慮して、JRC や、新しい植物交配技術に関する 2011 年の報告書、最近開発された NGTs の場合、健康と食品安全のための欧州委員会による農業バイオテクノロジーの新しい技術に関する注釈 (EC - SAM. 2017) に基づいて定義された。

EFSA は特定の NGTs から開発した植物の新しい意見を開發するよう要請されなかったため、レビューされた科学的意見の批判的な評価は行われなかった。

* 参考資料

新しいゲノム技術で得た遺伝子組換え植物に関する 16 の科学的意見の概要

Overview of sixteen scientific opinions on genetically modified plants obtained by new genomic techniques

EFSA Journal 2021;18(4):EN-1973 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-1973>

(外部科学報告書)

新しいゲノム技術(NGTs)で得た遺伝子組換え植物に関する 2012 年以降の欧州の管轄機関や国立機関が発表した 16 の科学的意見の概要を作るよう EFSA は RIVM に依頼した。

6. ベイズ理論でのメタ分析、生理学的モデリング、*in vitro* システムを用いたトキシコキネティックおよびトキシコダイナミックプロセスのヒトの変動性モデリング

Modelling human variability in toxicokinetic and toxicodynamic processes using Bayesian meta - analysis. physiologically - based modelling and *in vitro* systems

EFSA Journal 2021;18(4):EN-6504 27 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-6504>

(外部科学報告書)

認可 GA/EFSA/SCER/2015/01 条項 36「ベイズ理論でのメタ分析、生理学的モデリング、*in vitro* システムを用いたトキシコキネティックおよびトキシコダイナミックプロセスのヒトの変動性モデリング」の結果をまとめた外部科学報告書。

7. 食品酵素関連

- 遺伝子組換え *Aspergillus luchuensis* FL100SC 株由来食品酵素トリアシルグリセロールリパーゼの安全性評価

Safety evaluation of the food enzyme triacylglycerol lipase from the genetically modified *Aspergillus luchuensis* strain FL100SC

EFSA Journal 2021;19(4):6561 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6561>

(科学的意見)

この食品酵素トリアシルグリセロールリパーゼ(triacylglycerol acylhydrolase EC 3.1.1.3)は Advanced Enzyme Technologies Ltd 社が遺伝子組換え *Aspergillus luchuensis* FL100SC 株で生産した。この遺伝子組換えは安全上の懸念を生じない。この食品酵素に生産物の生きた細胞やその DNA はない。このトリアシルグリセロールリパーゼはエステル交換による加工油脂の生産に固定化型でのみ使用されることを意図している。総有機固形物(TOS)の残留量は、エステル交換の油脂加工中に適用される濾過や精製段階で除去されるため、食事暴露は算出されなかった。遺伝毒性試験は安全上の懸念を生じなかった。全身毒性はラットの 90 日間反復経口投与毒性試験で評価された。パネルは無毒性量(NOEL)を、調べた最大用量 849 mg TOS/kg 体重/日とした。既知のアレルゲンに対するこの食品酵素のアミノ酸配列の類似性が調査され、一致はなかった。パネルは、意図した使用条件で食事暴露によるアレルギー感作リスクや誘発反応は除外できないが、これが生じる可能性は低いと考えた。固定化プロセスや最終製品に TOS がいないことなど、提出されたデータに基づき、パネルは、この食品酵素は意図した使用条件で安全上の懸念を生じないと結論した。

- 遺伝子組換え *Bacillus subtilis* DP - Ezd31 株由来食品酵素エンド - 1.4 - β - キシラナーゼの安全性評価

Safety evaluation of the food enzyme endo - 1.4 - β - xylanase from the genetically modified *Bacillus subtilis* strain DP - Ezd31

EFSA Journal 2021;19(4):6562 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6562>

(科学的意見)

この食品酵素エンド - 1.4 - β - キシラナーゼ(4 - β - d - キシラン キシラノヒドロラーゼ; EC 3.2.1.8)は Danisco US Inc 社が遺伝子組換え *Bacillus subtilis* DP - Ezd31 株で生産した。この食品酵素の生産株には既知の抗生物質耐性遺伝子の複数のコピーが含まれている。だが、この食品酵素の生産生物に由来する生きて細胞や DNA がいないことに基づき、これは安全上の懸念ではないと考えられている。この生産株は安全性評価に対する安全性適格推定(QPS)アプローチの基準を満たすとは示されていない。提出された代替研究はこの食品酵素の毒性学的評価に適しているとは見なされなかった。既知のアレルゲンに対するアミノ酸配列の類似性の調査が行われ、一致はなかった。パネルは、意図した使用状況で、食事暴露によるアレルギー感作リスクや誘発反応は除外できないが、これが生じる可能性は低いと考えた。適切な毒性学的試験がないため、パネルはこの食品酵素の安全性を結論できない。

8. 飼料添加物関連

- すべての動物種用 *Bacillus amyloliquefaciens* DSM 25840 株からなる添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of an additive consisting of *Bacillus amyloliquefaciens* DSM 25840 for all animal species (Chr. Hansen A/S)

EFSA Journal 2021;19(4):6522 21 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6522>

- 認可更新のためのすべての動物種用 all - rac - α 酢酸トコフェリル(ビタミン E)からなる飼料添加物の評価(DSM)

Assessment of a feed additive consisting of all - rac - alpha tocopheryl acetate (vitamin E) for all animal species for the renewal of its authorisation (DSM)

EFSA Journal 2021;19(4):6529 23 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6529>

- 産卵鳥以外のすべての鳥種用の安息香酸、ギ酸カルシウム、フマル酸の製剤(AviMatrix Z)からなる飼料添加物の安全性と有効性(Novus Europe S.A. / N.V)

Safety and efficacy of a feed additive consisting of a preparation of benzoic acid, calcium formate and fumaric acid (AviMatrix Z) for all avian species other than laying birds (Novus Europe S.A. / N.V)

EFSA Journal 2021;19(4):6528 23 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6528>

- すべての動物種用硫酸第一鉄リシネートからなる飼料添加物の安全性と有効性
(Phytobiotics Futterzusatzstoffe GmbH)

Safety and efficacy of a feed additive consisting of ferrous lysinate sulfate for all animal species (Phytobiotics Futterzusatzstoffe GmbH)

EFSA Journal 2021;19(4):6545 23 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6545>

- 認可更新のためのすべての動物種用 RRR - 酢酸 α - トコフェロール (ビタミン E) からなる飼料添加物の評価(Specialty Ingredients (Europe) B.V. and Vitae Caps S.A.)

Assessment of a feed additive consisting of RRR - alpha - tocopheryl acetate (vitamin E) for all animal species for the renewal of its authorisation (Specialty Ingredients (Europe) B.V. and Vitae Caps S.A.)

EFSA Journal 2021;19(4):6532 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6532>

- すべての動物種用 *Corynebacterium glutamicum* KCCM 80183 株で生産した飼料添加物濃縮液 l-リジン(塩基性)及び l-リジン塩酸塩の安全性と有効性(CJ Europe GmbH)

Safety and efficacy of the feed additives concentrated liquid l - lysine (base) and l - lysine monohydrochloride produced by *Corynebacterium glutamicum* KCCM 80183 for all animal species (CJ Europe GmbH)

EFSA Journal 2021;19(4):6537 28 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6537>

- すべての動物種用エチレンジアミンの鉄キレートからなる飼料添加物の安全性と有効性(Zinpro Animal Nutrition (Europe). Inc.)

Safety and efficacy of a feed additive consisting of iron chelate of ethylenediamine for all animal species (Zinpro Animal Nutrition (Europe). Inc.)

EFSA Journal 2021;19(4):6540 28 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6540>

- 認可更新のためのすべての動物種用 all - rac - 酢酸 α トコフェロール(ビタミン E)からなる飼料添加物の評価(EUROPE - ASIA Import Export GmbH)

Assessment of a feed additive consisting of all - rac - alpha tocopheryl acetate (vitamin E) for all animal species for the renewal of its authorisation (EUROPE - ASIA Import Export GmbH)

EFSA Journal 2021;19(4):6530 28 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6530>

- すべての動物種用エチレンジアミンの銅キレートからなる飼料添加物の安全性と有効性(Zinpro Animal Nutrition (Europe). Inc.)

Safety and efficacy of a feed additive consisting of copper chelate of ethylenediamine for all animal species (Zinpro Animal Nutrition (Europe). Inc.)

EFSA Journal 2021;19(4):6541 28 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6541>

- 子豚(離乳)、豚肥育、鶏肥育、産卵鶏育成、産卵鶏、七面鳥肥育、交配のため育成する七面鳥、マイナー家禽種用の飼料添加物として *Trichoderma reesei* CBS 140027 株で生産したエンド - 1.4 - β - キシラナーゼ (ECONASE®XT) からなる飼料添加物の安全性と有効性(Roal Oy)

Safety and efficacy of a feed additive consisting of endo - 1.4 - β - xylanase (ECONASE®XT) produced by *Trichoderma reesei* CBS 140027 as a feed additive for piglets (weaned). pigs for fattening. chickens for fattening. chickens reared for laying. laying hens. turkeys for fattening. turkeys reared for breeding and minor poultry species (Roal Oy)

EFSA Journal 2021;19(4):6536 28 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6536>

- 認可更新のためのすべての動物種用 all - rac - 酢酸 α トコフェロール (ビタミン E) からなる飼料添加物の評価

Assessment of a feed additive consisting of all - rac - alpha tocopheryl acetate (vitamin E) for all animal species for the renewal of its authorisation (BASF SE)

EFSA Journal 2021;19(4):6531 29 April 2021

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6531>

-
- 英国広告基準庁 (UK ASA: Advertising Standards Authority)

<http://www.asa.org.uk/>

1. 年次報告書 2020—若者と脆弱な人々を守る

Annual Report 2020 - Protecting young and vulnerable people

Annual report 29 Apr 2021

<https://www.asa.org.uk/resource/annual-report-2020-protecting-young-and-vulnerable-people.html>

我々と、他の多くの機関にとって、2020年は人々の安全を守ることが大事な年だった。我々は Covid-19 関連広告については迅速に対応し、活発にオンラインプラットフォームを追跡し、新たに詐欺広告警告システムを開始した。

*詳細は年次報告書を参照

<https://www.asa.org.uk/uploads/assets/ce3a636a-9e78-452b-9bc7a417f86134a3/ASA->

[CAP-2020-Annual-Report-Full-Version-Singles.pdf](#)

改定あるいは取り下げた広告は 36.491 件で、2019 年から 346%の増加。ASA は問題のある広告を積極的に発見する革新的技術を利用し、オンライン広告をより効率的に規制することに焦点を当てている。

2. ASA 裁定

● ASA Ruling on Homeopathy UK

05 May 2021

<https://www.asa.org.uk/rulings/homeopathy-uk-a20-1077604-homeopathy-uk.html>

ホメオパシーの「世界中で健康のために使われている…英国では頭痛、不安、慢性痛、女性の健康問題、鬱、湿疹、慢性疲労、喘息、IBS、関節リウマチその多くの病気に使われている」という宣伝に Good Thinking Society が苦情申し立て。ASA は必要な医療を受けないようになるとして基準違反と判断

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung)

<http://www.bfr.bund.de/>

1. 消費者健康保護：大部分の人は科学を信頼している

Consumer health protection: Majority of the population trusts science

26.04.2021

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2021/17/consumer_health_protection_majority_of_the_population_trusts_science-271596.html

ドイツ人の約 2/3 は消費者の健康を守るのに科学を信頼していることが、ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)の代表的な人口調査である最新の消費者モニターの結果からわかった。消費者アドバイスセンターと消費者団体は同様の高水準の信頼を享受している。これに対して、健康を守ることにに関して、政治、メディア、経済を信じているのは 6 人に 1 人だけだった。「科学は真実を追究する。回答者の半数以上が食品中のマイクロプラスチックを懸念しているが、現在の知見に基づくと、食品中のプラスチック粒子がヒトの健康リスクを引き起こす可能性は低い」と BfR 長官 Andreas Hensel 医学博士は述べた。

* BfR の消費者モニター情報小冊子 02/2021 :

<https://www.bfr.bund.de/cm/364/bfr-consumer-monitor-02-2021.pdf>

最新の BfR の消費者モニターの結果から、消費者の健康の話題について人々の関心は一般的に高く、2/3 がそれらに関心があることが示された。約半数はそのようなテーマの情報をよく得ている。回答者の 22%が自発的に言及した最大の健康リスクは、食品中の糖、脂肪、塩の高含有など特定の栄養群である。不健康な食事とライフスタイル(13%)や、食品中の望ましくない物質や添加物(それぞれ 11%)が大分離れて続く。

選択されたテーマについて尋ねると、最大の関心事は食品中の抗生物質耐性やマイクロプラスチックで、57%が抗生物質耐性を、54%が食品中のマイクロプラスチックを懸念している。だが、自らの家庭の食品衛生についての懸念は比較的少ない。10人に1人だけが懸念していて、同時に、ほとんどの回答者—全体のおよそ2/3(66%)がこの分野の十分な情報を得ていると感じている。だが、科学的観点から、家庭の食品衛生の欠如が食中毒の主な原因の1つである。

BfRの消費者モニターについて

知りたいのはどの健康リスクで、心配しているのは何なのか？ BfR 消費者モニターはこれらの質問への答えを提供している。BfRはこの調査のために、16歳以上の個人世帯に住むおよそ1,000人に、6ヶ月ごとに電話でインタビューした。

近年、BfR 消費者モニターのアンケートは高い科学的基準の方法論を確保するために継続的に改良されてきた。この調査では、質問設定が更新され、既存の質問の内容が拡張され、回答スケールの形式が標準化されるなど、根本的な変更が加えられた。そのため、最新の問題は以前の調査結果と比較できない。

●フランス食品・環境・労働衛生安全庁（ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire de L'alimentation, de L'environnement et du Travail）

<http://www.anses.fr/>

1. 内分泌かく乱物質の評価を加速する

Accelerating the assessment of endocrine disruptors

15/04/2021

<https://www.anses.fr/en/NODE/148959>

フランスの第2回内分泌かく乱物質国家戦略（SNPE 2）の一環で、ANSESは重要な物質のリストを作成し、その評価プログラムに含まれるべき優先物質を同定した。ANSESは、評価される物質が、内分泌かく乱物質であると分かっている（known）、想定される（presumed）、疑いがある（suspected）のかどうかを立証する方法も助言している。この作業の目的は、内分泌かく乱物質をより速くより効果的に同定するための共有アプローチを実施し、化学物質関連リスクを軽減するためにフランスや欧州が設定した目標に従ってその評価を促進することである。

内分泌かく乱物質(EDs)は、ヒトや動物のホルモン機能を妨げる物質である。それらは暴露した生物に有害影響を及ぼし、その種の生存に影響を与える。例えば、生殖、発達、代謝、免疫に影響を与えたり、がんの発症を促進する可能性がある。2019年に開始した第2回内分泌かく乱物質国家戦略(SNPE 2)は、これらの物質の人々や環境への暴露を削減するためにフランスの取り組みを継続し、拡大する。

この目標を達成するために、環境保健省は、優先物質に注力し、内分泌かく乱物質の可能性のある物質の特性を厳密に評価するための2つの方法論的ツールを開発するよう ANSES に求めた。これら2つのツールは次の通り。

- 優先順位付け戦略に関連した、潜在的な内分泌作用のために重要とされる物質のリスト
- 内分泌かく乱物質であると、分かっている、想定される、疑いがある、に分類するために、物質を同定する科学的根拠を検討するための専門的評価法

この作業の一部は、内分泌かく乱物質の評価の速度を上げるため同じアプローチに取り組む欧州化学庁(ECHA)や加盟国に提示されている。国内および国際的な科学的協力は、危険な内分泌かく乱物質として一部の物質の認識を加速する上で重要な役割を果たすだろう。

同定から優先順位付けまで

様々な基準と目的に基づいて、多くの潜在的な内分泌かく乱物質のリストが世界の様々な地域で起草されている。その結果、これらのリスト上の物質の数は数十から数千までかなり異なる。WHO の定義に基づき、EDs のハザードキャラクターゼーションには3つの特性が必要である(下部参照)。生物の内分泌系は複雑で、必ずしも健康被害を示すとは限らない多くの物質に反応する可能性がある。そのため、大量のデータを収集し、詳細な評価を実施することが不可欠である。

ANSES は既存の物質リストと使用した方法を比較し、WHO が設定した3つのポイントに基づいた評価を検討するのに十分なデータが得られている注目物質の厳密なリストを作成した。

【内分泌かく乱物質の同定基準】

WHO の定義によると、物質は、以下の3つの条件に合うと内分泌かく乱物質として認識される：

- 健康への有害影響
- 内分泌系の1つ以上の機能を変える
- これら2つの間に、生物学的に妥当な関連性がある

動物あるいは細胞モデルで観察された影響が、ヒトや特定の動物集団にあてはまることも必要である。

この注目物質リストは906物質からなる。これらの物質には複数の用途があり、工業プロセスでのみ使用されるものもあれば、日常の消費者製品、植物保護製品、殺生物剤、医薬品にもある。それらの一部はすでに、欧州の規制の枠組みの一環で、内分泌かく乱物質の特性を評価されている。

確認された注目物質が内分泌かく乱物質であるかの決定には詳細な評価が欠かせない。この評価には科学的データと同時に専門的評価の基本となる方法論が必要である。また、優先すべき物質に評価のリソースと主眼が置かれることが不可欠である。これらの注目物質は、近年 ANSES が実施してきた評価を引き継ぎ、SNPE 2の一部として継続的に実施され

る年次評価プログラムに含まれる予定である。

<評価する物質の選択：優先すべき物質の設定>

ANSES が作成した 906 物質のリストには、欧州ですでに禁止されている、あるいは厳しく規制されているものや、欧州諸国でもはや使用されていない物質などが多く含まれている。そのため ANSES は、欧州で人々が暴露されており、かつ計画された評価の一環として内分泌の特性がまだ調査されていない物質を優先するという過程を導入する。これらの物質は優先されなければならない。

この過程を通して、ANSES は、内分泌かく乱物質としてのハザードのレベルを設定するために評価が必要だと考える 16 の優先物質を特定した。この選定は ANSES の内分泌かく乱物質に関するテーマ別運営委員会に提出され協議される予定である。この協議を経て、ANSES は 2021 年からの作業プログラムに含むべき物質に関する勧告を SNPE 2 の担当省庁に提出する。この作業により、様々な物質の内分泌かく乱の性質を評価するために欧州ですでに進行中の評価プロセスが補完される。

ED 特性の断片化した知見を考慮した評価方法論

近年の提言、特に 2016 年に発表された内分泌かく乱物質を定義するための科学的基準に関する意見を反映して、ANSES は、評価に次いで、内分泌かく乱物質として「分かっている」「想定される」「疑いがある」に区別できるようにすることが必要だと強調する。

ANSES が同定した優先物質を評価するには、現在の科学的知見ではある物質を内分泌かく乱物質として明確に特定できるとは限らないため、これらの物質の内分泌かく乱特性の確実性の程度を特徴付ける手段が必要である。

近年この話題に関して行われた研究を継続し、EU が「有害物質のない環境を目指す持続可能な EU 化学物質戦略」の一環として発表した方法論に先立ち、ANSES は運用上の分類を確立するための方法論を提案している。現在、発がん性、変異原性、生殖毒性の物質の場合と同様に、ANSES は不確実性をより考慮し、専門家が判断を表明しやすいように段階的なアプローチを実施している。

【ある物質が内分泌かく乱物質であるという可能性の程度を反映して設定された分類】

ANSES が定義した分類は、ある物質が内分泌かく乱物質であるという可能性に基づいている：

- 分かっている (known) : 内分泌かく乱物質の可能性が高い物質(90%以上の確率)
- 想定される (presumed) : 内分泌かく乱物質であることが強く疑われる物質だが、確実ではない(66%~90%の確率)
- 疑いがある (suspected) : 受け取った情報は懸念されるが、明確な判断には不十分な物質(5%~66%の確率)

この方法論では特定の時点で利用可能なすべてのデータが考慮されることを担保している。段階的に結果を出すことにより、この方法論は用途や暴露される集団に応じて適用される規制の変更を可能にする：例えば、おもちゃにはより厳格な規則、つまり「分かっている」、

「想定される」、「疑いがある」のいずれの内分泌かく乱物質も禁止、など。

提案された方法論は、科学的な不確実性や根拠のレベルをより考慮して、国内及び欧州の規制を変更することを支援する ANSES の意図を確実にするものであり、内分泌かく乱物質の危険性をより考慮して規制を更新するという欧州の野望と一致する。

【内分泌かく乱物質に関するいくつかの規制】

現在、植物保護製品や殺生物剤の規制は、内分泌かく乱物質として評価された物質を市販の認可(または更新)から除外している。

化学物質の登録、評価及び認可に関する欧州 REACH 規則の一環として、他の化学物質についてもこのハザードキャラクタリゼーションを考慮した規定があり、すべての EU 加盟国で適用されている。この規則によると、内分泌かく乱物質の特性を持ち、発がん性、変異原性、生殖毒性の物質(CMRs)と同等の懸念レベルの物質は、非常に懸念の高い物質として同定され、それゆえ認可対象物質リストに含まれる可能性がある。

最後に、欧州 CLP(物質や混合物の分類・表示・包装)規則の一環として内分泌かく乱物質のハザード分類を作る議論が進んでいる。

* 追加情報

- ・ 内分泌かく乱物質に関する記事

<https://www.anses.fr/en/content/anses-work-and-involvement-area-endocrine-disruptors>

- ・ 潜在的な内分泌作用の重要な化学物質リストの草案に関する意見と報告書

<https://www.anses.fr/en/system/files/REACH2019SA0179Ra-1.pdf>

(page 47/79 の Table 7 に 16 優先物質)

- ・ 3つの分類「知られている」「想定される」「疑いがある」の潜在的な ED 物質を分類するための方法論の開発に関する意見と報告書

<https://www.anses.fr/en/system/files/REACH2019SA0179Ra.pdf>

- ・ 潜在的な内分泌作用による重要な化学物質リストの草案に関する ANSES の意見と報告書への添付書類。評価の確認方法と優先順位付け戦略

<https://www.anses.fr/en/system/files/REACH2019SA0179Anx-1.xlsx>

(化合物リストのエクセルファイル)

2. フランス人のためのビタミンとミネラルの新しい食事摂取基準を発表

Publication of the new dietary reference values for the vitamin and mineral intake of the French population

News of 23/04/2021

<https://www.anses.fr/en/content/publication-new-dietary-reference-values-vitamin-and-mineral-intake-french-population>

主に食事から得られるビタミンやミネラルは、私達の健康、成長、身体の機能に欠かせない。ANSES は栄養ニーズを満たすために必要なビタミンやミネラルの摂取量を規定する食事摂取基準を更新している。これらの値は栄養と健康分野のすべての専門家が用いる参照値となる。

集団ごとの食事摂取基準

ANSES は現在、成人のビタミンやミネラルの摂取量の食事摂取基準を最終化している。これには 2016 年には入れることができなかったビタミンやミネラルも含まれている。同時に ANSES は、乳児、子供、青年、妊婦、授乳中の女性、高齢者といった特定集団の食事摂取基準を再評価している。これらの値は 2001 年以降更新されていなかった。

本日発表する値は、フランスの健康な人々のビタミンやミネラルの新たな基準値である。医療従事者が利用でき、特に個別の予防的食事モニタリングや治療支援に役立つ。公衆衛生目的で、特にビタミンやミネラルの摂取量が不十分あるいは過剰な人数を推定したり、食事摂取ガイドラインを設定するために保健当局も利用できる。

ビタミン D や B₉ のニーズを満たすことは依然として公衆衛生問題である

2019 年にはフランスの成人の 70%以上がなおビタミン D を十分に摂取しておらず、6.5% は欠乏していた。医療制度を通してビタミン D 栄養強化食品や個人向けサプリメントを提供する以外に、ビタミン D の必要量は次のことで満たせる。

- 日光を浴びる：昼前や午後に 15～20 分間肌を日光にさらすことで、十分なビタミン D の一日摂取量を得る。
- ビタミン D の豊富な食品を食べる。脂っこい魚(ニシン、イワシ、サーモン、サバ)、アンズタケ、セップ茸、アミガサタケなどの特定のキノコ類、ビタミン D を強化した乳製品、卵黄、ダークチョコレート、バター、マーガリンなど。

胎児の先天性異常のリスクを防ぐために、妊娠する可能性のあるすべての女性はビタミン B₉ を十分に摂取することが不可欠である。このアプローチは計画外の妊娠を考慮に入れているため保護的である。豆類、緑の葉物野菜、酵母フレーク、小麦胚芽、卵黄がビタミン B₉ の優れた供給源である。

基準値を食習慣に適応させる研究

これらの食事摂取基準の基礎となる研究は、主に西洋型の食事状況で実施された。他の状況や他の食習慣、特に海外でこれらの基準値に適応させるには研究が必要である。

* 追加情報

ビタミンやミネラルの栄養ガイドライン更新の最終化に関する ANSES の意見及び報告書(フランス語)

ANSES OPINION & REPORT on finalisation of the nutritional guideline update for vitamins and minerals

<https://www.anses.fr/fr/system/files/NUT2018SA0238Ra.pdf>

●アイルランド食品安全局（FSAI : Food Safety Authority of Ireland）

<http://www.fsai.ie/index.asp>

1. FSAI は組成変更の監視のためのヨーグルトの栄養表示使用を評価する新たな報告書を発表する

FSAI Publishes New Report Evaluating the Use of Nutrition Labels on Yogurt for Monitoring Reformulation

Wednesday, 28 April 2021

https://www.fsai.ie/news_centre/press_releases/monitoring_reformulation_28042021.html

FSAI は本日、アイルランドで販売される食品の組成変更監視において、ヨーグルトの栄養成分表示の利用を評価した新たな報告書を発表した。「ヨーグルトの組成変更：アイルランド食品の組成変更の監視における食品栄養表示の正確性」報告書は、食品組成が正しく反映されておらず、栄養表示は完全には信頼できないことを明らかにした。ヨーグルトを含めた加工食品は、食品の脂肪と糖を減らすことが健康にプラスに働き、アイルランドで問題の肥満と戦う費用対効果の高いものだが、食品の組成変更は正しいベースラインが不可欠で、目標の進捗は正確に測られなければならない。

「アイルランド人のための健康的な体重：肥満対策と実施計画 2016–2025」に従い、食品業界によるエネルギー、飽和脂肪、糖及び塩に関する自主的な組成変更目標は、肥満政策実行監視団体の合意を得ている。団体は、合意された目標の進捗をはかる監視方法を開発する任務が与えられた。

FSAI は EC 栄養表示トレランスガイドラインに従い、栄養表示の正確性を判断するために、アイルランドで販売されるヨーグルト 200 サンプルを調べた。表示された栄養価のほとんどは、総脂肪量や飽和脂肪量のガイドラインに従っていた。しかし、17%（33 件）のヨーグルトの糖の量は EC ガイドラインのトレランスに従っていなかった。糖と飽和脂肪量は表示されている栄養価よりも低いものが多かったが、脂肪量はそうではなかった。

報告書は以下の助言を含む：

- ・ EC 栄養表示トレランスガイドラインを考慮すると、栄養表示は正しい食品組成変更を反映しない可能性があり、この結果は組成変更監視プログラム作成時に考慮する必要がある。
- ・ 表示された栄養情報に基づく組成変更監視プログラムには、栄養表示の検証による、定期的な「表示が正しいことの確認」が必要である。
- ・ ヨーグルトのような革新的な食品分野はこれらの食品分野の組成変更を理解するために定期的な監視が必要である。
- ・ ヨーグルト栄養成分の表示値と分析された定量値の違いに影響する要因は数多くあり、組成変更監視に影響を与える可能性があるため、食品業界とさらに調査をする必要がある。

ある。

- ・ 追加の食品カテゴリーでこの研究結果が当てはまるか判断するために、同様の方法で調査する必要がある。

* ヨーグルトの組成変更：アイルランド食品の組成変更の監視における食品栄養表示の正確性

<https://www.fsai.ie/WorkArea/DownloadAsset.aspx?id=18514>

メモ

栄養表示規則は、分析または一般に認められるデータに基づき食品の平均的な栄養成分量の表示を求めている。そのため、またほかの技術的理由のため、個々の製品の栄養成分量はこの平均値の周辺で変動する。EC 栄養表示トレランスガイドラインは、分析された栄養成分量と食品ラベルに表示された栄養成分量との間に許容できる変動を設定する。結果として、食品の実際の栄養価はトレランスの範囲で表示の栄養価と異なる。許容範囲は、食品の種類、栄養成分の種類と量、食品に表示があるかどうかによって異なり、食品の実際の栄養価がラベルに記載された値と異なっても、それがガイドラインの許容範囲内であれば許容される。

2. FSAI は大麻を含む食用製品（菓子）に警告を発する

FSAI Issues Warning on Edible Products (Sweets) Containing Cannabis

Monday, 26 April 2021

https://www.fsai.ie/news_centre/press_releases/jelly_sweets_warning_26042021.html

FSAI は大麻成分を含むゼリー菓子のような食用製品の喫食に関連する危険性について消費者に警告を発した。10代の多くが消費している大麻オイル入り菓子を食べ、その有害影響により入院する事例が少なくとも1件確認されている。

問題の菓子はオンラインで購入されて相当量のテトラヒドロカンナビノール (THC) が含まれることが警告されていた。THC は汚染物質で、どんな食品にも加えられるべきではない。EU では THC は食品ではなく、アイルランドでは規制対象薬物である。

3. リコール情報

- **Recall of Some Batches of Organic Millet Pops due to the Possible Presence of Tropane Alkaloids**

Friday, 23 April 2021

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/Millet_Pops.html

Independent Irish Health Foods Ltd は、トロパンアルカロイドを含む可能性のためオランダ産 Organic Millet Pops（きびポップ）を一部リコール措置。製品写真有。

● 米国食品医薬品局（FDA : Food and Drug Administration） <http://www.fda.gov/>.

1. 急性非ウイルス性肝炎調査-「リアルウォーター」ブランドのアルカリイオン水

Investigation of Acute Non-viral Hepatitis Illnesses – “Real Water” Brand Alkaline Water (March 2021)

04/28/2021

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/investigation-acute-non-viral-hepatitis-illnesses-real-water-brand-alkaline-water-march-2021>

（更新部分のみ）

2021年4月26日、ネバダ州南部保健地区は次のように発表した。「保健地区は追加で可能性の高い6症例（合計で11症例になる）と疑わしい1症例を確認した。最新の確認された症例はすべて成人であり、疑わしい1症例は臨床基準を満たしているが、まだウイルス性肝炎の検査はされていない」

* ネバダ州南部保健地区の報告

Southern Nevada Health District links additional acute non-viral hepatitis illness to “Real Water” brand alkaline water

<https://www.southernnevadahealthdistrict.org/news-release/southern-nevada-health-district-links-additional-acute-non-viral-hepatitis-illness-to-real-water-brand-alkaline-water/>

* 関連記事：

【FDA】急性非ウイルス性肝炎調査－「リアルウォーター」ブランドのアルカリ水

4月16日時点の記事：食品安全情報（化学物質）No. 9/2021（2021.04.28）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202109c.pdf>

3月31日時点の記事：食品安全情報（化学物質）No. 8/2021（2021.04.14）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202108c.pdf>

3月26日時点の記事：食品安全情報（化学物質）No. 7/2021（2021.03.31）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202107c.pdf>

2. よりスマートな食品安全新時代テックトークポッドキャスト

New Era of Smarter Food Safety TechTalk Podcast

04/29/2021

<https://www.fda.gov/food/new-era-smarter-food-safety/new-era-smarter-food-safety-techtalk-podcast>

2021年4月29日の第1話「技術が可能にしたトレーサビリティ」を掲載。

* 関連記事

【FDA】FDA はよりスマートな食品安全新時代のテックトークポッドキャストを始める
食品安全情報（化学物質）No. 9/ 2021（2021. 04. 28）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202109c.pdf>

3. FDA は「ヘルシー」シンボルに関する消費者研究の手続き通知を発表

FDA Issues Procedural Notice on Consumer Research on “Healthy” Symbol

May 6, 2021

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-issues-procedural-notice-consumer-research-healthy-symbol>

FDA は、栄養含有強調表示「ヘルシー (healthy)」を表すために将来的に使用される可能性のあるシンボルマークについて、消費者を対象とした予備的な定量調査を行う予定であり、その手続き通知を発表する。ペーパーワーク削減法 (Paperwork Reduction Act) の一環として、連邦政府機関は提案された情報収集について逐一連邦官報に掲載し、一般市民に意見提出の機会を与えることが義務付けられている。

この研究は、FDA が後に発表する予定の規則案の策定に合わせて行われており、この規則案では、製造業者がどのような場合に食品包装に「ヘルシー」という栄養含有強調表示を使用できるのか更新することになっている。このシンボルマークは、栄養含有強調表示を様式化したものである。

今回の、栄養含有強調表示「ヘルシー」のための定義の更新とシンボルマークの作成は、FDA の栄養革新戦略 (NIS) の一環である。NIS は、有色人種のコミュニティで不均衡に高い割合で発生する栄養関連の慢性疾患を減らすことを目的としている。

FDA は、収集される情報の質、有用性、明確性を高める方法について意見を求めており、連邦官報に掲載されてから 60 日後を期限とする。

手続き案内

Procedural Notice

<https://www.federalregister.gov/public-inspection/2021-09622/agency-information-collection-activities-proposals-submissions-and-approvals-quantitative-research>

「包装済み食品に栄養含有強調表示「ヘルシー」を図示する任意シンボルに関する定量的研究」のための新規情報収集に関する意見募集。

FDA が求めるコメントのトピック

1. 提案された情報収集が FDA の機能を適切に果たすために必要であるかどうか（その情報が実用的であるかどうかを含む）。
2. 提案された情報収集の負担に関する FDA の見積もりの正確さ（使用された方法論と仮定の妥当性を含む）。
3. 収集される情報の質、実用性、明確性を高めるための方法
4. 必要に応じて自動化された収集技術やその他の情報技術の利用を含め、回答者の情報収集の負担を最小限にする方法。

「包装済み食品に栄養含有強調表示「ヘルシー」を図示する任意シンボルに関する定量的研究」概要

2019年と2020年に、FDAは包装前面（FOP）の栄養関連シンボルに関する文献のレビューを行った後、シンボルのコンセプトを検証し、製造業者が任意で使用できるFOPシンボルの草案を作成した。FDAは、この草案に対する消費者の反応を探るために、実験的研究と2つの調査という3つの連続した定量的研究を行うことを提案している。

- ▶ 研究1：米国の成人5,000人を対象とした15分程度のウェブアンケートを実施。参加者は無作為に4つの条件に割り付けられ、ラベル画像を見て、シンボルの有効性に関する様々な指標に答える。
- ▶ 研究2&3：研究2と3では同じ10分間のアンケートを使用し、複数のFOPシンボルの草案を検証。18歳以上の米国成人1,000人を対象。改訂されたシンボルの明確性、関連性、魅力に焦点を当てて調査する。

4. 公示

下記の製品は表示されていない違法成分を含むため購入、使用しないよう消費者に助言する。製品写真は各ウェブサイトを参照。

- Vital Sex

4-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-vital-sex-contains-hidden-drug-ingredient>

シルデナフィルを含む

- ErectMax

4-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-erectmax-contains-hidden-drug-ingredient>

シルデナフィルを含む

- Enerup Premiumt

4-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-enerup-premium-contains-hidden-drug-ingredient>

シルデナフィルを含む

- Tummy Tuck Max

Public Notification: Tummy Tuck Max contains hidden drug ingredient

4-29-2021

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/public-notification-tummy-tuck-max-contains-hidden-drug-ingredient>

シブトラミン、フェノールフタレインを含む。

5. 警告文書

- **Orphic Nutrition**

APRIL 13, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/orphic-nutrition-612470-04132021>

未承認の医薬品、不正表示の問題。

- **NEM Advisors LLC / Shop & Save Market**

APRIL 15, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/nem-advisors-llc-shop-save-market-613666-04152021>

外国供給業者検証プログラム（FSVP）違反の問題。

- **Unived Inc**

APRIL 07, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/unived-inc-611569-04072021>

未承認の医薬品、不正表示の問題。ダイエットリーサプリメント製品を含む。

- **Immune & Genetics Protocols. LLC**

MARCH 30, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/immune-genetics-protocols-llc-611042-03302021>

未承認の医薬品、不正表示の問題。ダイエットリーサプリメント表示製品を含む。

- **George DeLallo Company. Inc.**

MARCH 30, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/george-delallo-company-inc-612553-03302021>

前菜製品、クッキー製品のアレルゲン非表示の問題。

- **Hanover Foods Corporation**

MARCH 26, 2021

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/hanover-foods-corporation-612551-03262021>

ライスブディング、ポップコーン製品のアレルゲン非表示の問題。

-
- 米国環境保護庁（EPA : Environmental Protection Agency） <http://www.epa.gov/>

1. EPA の Regan 長官は新しい PFAS 評議会を設定

EPA Administrator Regan Establishes New Council on PFAS

04/27/2021

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-administrator-regan-establishes-new-council-pfas>

Michael S. Regan 長官は Radhika Fox 筆頭次官補代理を議長とする PFAS 評議会「EPA Council on PFAS (ECP)」を設立した。

PFAS に関する EPA の継続的な取り組みは、2019 年 EPA PFAS 行動計画に基づいている。ECP に求められる役割は以下の通り；

- PFAS 2021-2025 - アメリカの水と空気と大地を守る (PFAS 2021-2025 - Safeguarding America's Waters, Air and Land) の策定：公衆衛生の保護を提供するための複数年にわたる戦略。ECP はすべての進行中の活動を見直し、必要な修正を提案し、新たな戦略と優先事項を特定する。ECP は、設立から 100 日以内に最初の提言を行う予定。
- 省庁間の緊密な連携の継続：重大かつ複雑な PFAS 問題に直面している州、部族、地域コミュニティを支援するために、地域特有の問題やクロスメディアの問題について連携する。
- 連邦および州の資金の活用：国内プログラム事務所および地域と協力して、EPA の資金調達および融資プログラムの効果を最大化し、特に十分なサービスを受けていない地域における PFAS 汚染の浄化を支援する。
- コミュニケーション：連邦、州、部族のパートナーとの関わりを拡大し、情報を交換し、共同で解決策を見出す。

2. EPA は環境正義を推進するために有害化学物質排出目録を更新する計画を発表

EPA Announces Plan to Update Toxics Release Inventory to Advance Environmental Justice

04/29/2021

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-announces-plan-update-toxics-release-inventory-advance-environmental-justice>

本日 EPA は、環境正義を推進し、透明性を向上し、環境情報へのアクセスを増加させるために、有害化学物質排出目録 (Toxics Release Inventory: TRI) のもと、重要な措置を講じることを発表した。この包括的な計画には、TRI 報告義務の範囲を拡大して、追加の化学物質や施設を含めることや、TRI データを一般の人々がよりアクセスしやすくするための新しいツールを提供することが含まれる。

報告義務の追加が予定されている施設、化学物質、セクター：

- ・ エチレンオキシド (EtO) を使用する特定の契約滅菌施設
- ・ 天然ガス処理施設

- ・ パー及びポリフルオロアルキル化合物 (PFAS)
- ・ 有害物質規制法 (TSCA) 作業計画に含まれる化学物質および TSCA で優先度の高い物質として指定されたその他の物質

●米国農務省 (USDA : Department of Agriculture)

<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>

1. **USDA は遺伝子組換えを用いて開発したトウモロコシの規制解除のための環境影響声明を準備する意向通知にパブリックコメント募集**

USDA Seeks Public Input on Notice of Intent to Prepare an Environmental Impact Statement for Deregulation of Maize Developed Using Genetic Engineering

Apr 27, 2021

<https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/stakeholder-info/stakeholder-messages/biotechnology-news/ge-corn-input>

除草剤ジカンバ、グルホシネート、キザロホップ、2,4-D への抵抗性と、組織特異的グリホサート耐性を持つように改変された、ハイブリッド種子生産用トウモロコシ品種 MON 87429 について、2021 年 5 月 28 日まで意見を募集する。

2. **USDA の科学が食品廃棄を減らす 5 つの方法**

5 Ways USDA Science Reduces Food Waste

Apr 28, 2021

<https://www.usda.gov/media/blog/2021/04/28/5-ways-usda-science-reduces-food-waste>

「食品廃棄をやめようの日 (Stop Food Waste Day)」にあたり、USDA が食品のロスや廃棄を抑制するために、科学的アイデアで実行している 5 つの事例を紹介する。

1. 保存する : 長く農産物の生鮮状態を保つ容器の開発
2. 自動化 : 1 秒で 11 個以上のリンゴが選別できるシステムを開発
3. “不要な” 果実のアップサイクリング : 傷ついたり小さいリンゴをフルーツバーに
4. 食品安全強化 : 微生物を減らすことが食品ロスと廃棄を最小限に抑える。サルモネラ菌をコントロールする食品加工システムの開発
5. 消費者教育 : 廃棄を減らして健康的な食生活を送れるように

●米国連邦取引委員会 (FTC : Federal Trade Commission)

<http://www.ftc.gov/index.shtml>

1. FTC は議会で COVID-19 詐欺を抑制するための FTC の仕事について証言し、消費者にパンデミック関連詐欺やごまかしについて警告する

FTC Testifies before Congress on its Work to Curb COVID-19 Scams and Warn Consumers about Pandemic-related Frauds, Cons. and Swindles

<https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2021/04/ftc-testifies-congress-its-work-curb-covid-19-scams-warn>

上院商業委員会の消費者保護、製品安全性、データセキュリティ小委員会での証言。

FTC は危機が発生して以来、10 件以上の法的措置を講じ、350 社以上の企業が行った欺瞞的な主張の削除を指示し、消費者や企業にこれらのスキームの認識と回避を啓蒙するために 100 件以上の警告を発した。多くのことが達成された一方で、パンデミックに関連した詐欺との戦いは「今後も委員会の最優先事項であり、必要に応じて新たに制定された COVID-19 消費者保護法に基づいて民事罰を求めることを含め、この略奪的行為を阻止するためにあらゆる手段を用いる」と証言は締めくくられた。

-
- オーストラリア・ニュージーランド食品基準局
(FSANZ : Food Standards Australia New Zealand)

<http://www.foodstandards.gov.au/>

1. 食品基準通知

Notification Circular 154-21

29 April 2021

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notificationcircular154-21.aspx>

意見募集

- ・ 加工助剤としての *Bacillus subtilis* 由来 β-ガラクトシダーゼ (酵素) の認可申請について 2021 年 6 月 4 日まで意見を受け付ける。

* Call for comment - Processing aid from a new source

29/04/2021

<https://www.foodstandards.gov.au/media/Pages/Call-for-comment---Processing-aid-from-a-new-source.aspx>

β-ガラクトシダーゼは既に認可されていて長い使用歴があるが、同じ酵素を GM *Bacillus subtilis* 系統で生産する申請があった。

● ニュージーランド一次産業省 (MPI : Ministry of Primary Industry)

<http://www.mpi.govt.nz/>

1. 野菜を舞台の中央に立たせる新たな食品技術

New food technology brings vegetables centre stage

05 May 2021

<https://www.mpi.govt.nz/news/media-releases/new-food-technology-brings-vegetables-centre-stage/>

MPI は資金提供を通じて、植物を主原料とする製品がメイン料理となるよう成長市場への参入を促している。Food Nation が主導する 2 年間のプロジェクトは、キノコや穀類、野菜を使用した「疑似肉」の開発を目指している。

● ニュージーランド環境省 (New Zealand Environmental Protection Authority)

<https://www.epa.govt.nz/>

1. グリホサート：情報要請

Glyphosate: Call for information

<https://www.epa.govt.nz/public-consultations/open-consultations/glyphosate-call-for-information/>

我々はニュージーランドでの除草剤グリホサートの使用に関する情報を求める。これはグリホサートの使用を巡る規則を変更するかどうかを決めるためのごく最初の段階である。募集期間は 2021 年 8 月 27 日まで。

グリホサートについて

- ・ 1970 年代からニュージーランドで使われている除草剤
- ・ よく使われていて多くの農業用および消費者用製品の有効成分
- ・ 家庭菜園、農家、地域評議会で使われている
- ・ 指示と規則に従って使えば安全

求める情報

- ・ 現在の使用やそのベネフィット
- ・ 製品の有効性や有害事象、毒性に関する根拠
- ・ いろいろな地域でどう使われているか
- ・ グリホサート製品に関するあなたの見解

● 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/index.shtml>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department. The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載しています。

1. 窒素 - 包装用ガスとその先

Nitrogen – A Packaging Gas and Beyond

21 Apr 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/multimedia/multimedia_pub/multimedia_pub_fsf_177_02.html

-食品安全センター、リスク評価部、科学官の Ms. Sosanna WONG 報告-

ポテトチップスやエビせんべいの袋が膨らんでいるのを不思議に思ったことはないか？さらに、一旦開封すると賞味期限前なのになぜ中のポテトチップスが柔らかくなるのか、時にはすぐに傷むのか？包装用ガスは食品の劣化を遅らせ、効率的に長持ちさせるために、食品加工において特有の機能をもつ食品添加物と見なされる。この記事は食品中の包装用ガスの使用、科学的背景及びその安全性を述べる。

包装用ガスとは何か？

空気は窒素を約 78%、酸素を 21% 及びいろいろな量の水分量を含む。空気にさらされると、ポテトチップスのような食品は湿気を吸収し、すぐに劣化し、湿気る。大気中の酸素も食品中の不飽和脂肪酸と反応し、悪臭を放つことになる。結果として、これは望ましい品質を保持し、食品の保存期間を延長する上で、食品製造業者が常に直面する課題である。

この包装用ガスの使用は効果的な解決策である。包装用ガスは酸化や腐敗から食品を守るために食品を詰める時あるいは詰めた後に包装に注入されるガスである。例として、窒素、二酸化炭素及び亜酸化窒素が含まれる。窒素はスナック菓子、朝食用シリアル、飴、パン製品、ドライフルーツや乾燥野菜及び加工肉製品を含む様々な食品に包装用ガスとして使用されてきた長い歴史がある。

窒素は包装用ガス以上の効果がある

窒素は、醸造所やコーヒー産業で、最終製品の口当たりがより豊かにクリーミーになるため「ニトロビール」あるいは「ニトロブリュー」として、ビールや水出しコーヒーに注入される。

包装用ガスとして窒素はどのような働きをするのか？

毎秒あなたが吸う空気と違い、食品包装に使用される窒素は酸素や水分をほとんど含まない。窒素は不活性、(すなわち食品成分と反応しない) 無臭及び無味である。窒素が包装

に注入されると、中にある酸素や水分が追い出される。包装内の空気を置換することで、窒素入り食品包装は品質を保ち、腐敗を遅らせ、食品の保存期間を延ばす。

窒素はまた、包装内の繊細な食品を取扱における破碎を和らげ、保護する。とはいえ、十分な保護を提供する量の窒素を使用すべきだが、移送や保管中の圧力変化による追加の膨張の余裕を残し、入れすぎないようにする。

包装は、ガス浸透性の低い素材で、窒素が逃げないようにしっかり封をしなければならない。一度開封すると、中にある食品は酸素や水分を含む大気にさらされる。即座に管理された環境から保護されなければ、中身はその後、湿気を吸収し、腐敗し、酸化しがちである。そのため、開封した場合、可能な限り早く食品を食べるのが最もよい。

窒素は食品に使用して安全であるか？

他の食品添加物同様、窒素は厳しい安全性評価を経て、食品使用に安全であると確認されている。FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議(JECFA)は、食品等級の窒素の安全性を評価し、適正製造基準に従い食品に使用される場合、通常の消費において安全であるとみなした。

食品等級の窒素とは何か？

食品等級の窒素は窒素濃度が高い（すなわち、99%以上）。反対に、食品等級でない窒素は意図する機能ができず、不純物を含む可能性があり、それゆえ食品使用に適さない。公衆衛生および市政条例(Cap. 132)に定められているように、香港で販売されるすべての食品はヒトの消費に適したものでなければならない。高純度の食品等級の窒素のみ、食品安全の保証と食品品質の保持のために食品に使用されなければならない。

2. 警告

- **有毒植物種子に汚染された疑いのある輸入包装冷凍ブロッコリーを食べないように注意を促す**

Not to consume a kind of imported prepackaged frozen broccoli suspected to be contaminated with toxic plant seeds

2021-4-28

https://www.cfs.gov.hk/english/whatsnew/whatsnew_fa/2021_422.html

食品安全センターと食品環境衛生署は、INFOSAN の通知を受け、ニュージーランド産包装冷凍オーガニックブロッコリーがオナモミの種子（有毒成分を含む）に汚染された可能性があるとして発表した。

3. 包装冷凍 bigeye fish のサンプルにポンソー4R が検出され、食品表示規則に違反する

Sample of prepackaged frozen bigeye fish detected with Ponceau 4R and not in compliance with food label rules

Monday April 26, 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/press/20210426_8634.html

食品安全センターと食品環境衛生署は、ベトナム産包装済み冷凍 bigeye fish のサンプルに生及び未加工の状態の魚に許可されていない着色料ポンソー4R を検出したと発表した。

4. 違反情報

- 菜心のサンプルに基準値超過の残留農薬

Pesticide residue exceeds legal limit in Choisum sample

Monday April 26, 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210426_8629.html

菜心サンプルにアセタミプリドが基準値（1.2 ppm）を超過して 2.42 ppm 検出された。

- スモークサーモンのサンプルが栄養表示規則に違反

Smoked Salmon not in compliance with nutrition label rules

Tuesday, April 27, 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210427_8635.html

オーストラリア産スモークサーモンサンプルにナトリウムが 1000 mg/100 g という表示のところ、1600 mg/100 g 検出された。

- ピーナツバターサンプルが栄養表示規則に違反

Peanut Butter sample not in compliance with nutrition label rules

May 5, 2021 (Wednesday)

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210505_8661.html

英国産チーズのサンプルに砂糖が 1.9 g/100 g という表示のところ、5.4 g/100g 検出された。

- チーズのサンプルが栄養表示規則に違反

Cheese sample not in compliance with nutrition label rules

Tuesday May 4, 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210504_8660.html

オーストラリア産チーズのサンプルに表示のない保存料のソルビン酸が 17 ppm 検出された。

- 包装ガムのサンプルが食品医薬品規則に違反

Prepackaged Gum sample not in compliance with Food and Drugs (Composition and Labelling) Regulations

Friday, April 30, 2021

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20210430_8652.html

包装ガムのサンプルに表示のない抗酸化物質ブチル化ヒドロキシアニソール(BHA)が 16 ppm 検出された。ただし規制値（400 ppm）未満であった。

- シンガポール食品庁（SFA : Singapore Food Agency） <https://www.sfa.gov.sg/>

1. Nanyang 工科大学シンガポール、シンガポール食品庁及び科学技術研究庁 (A*STAR) は食品安全科学においてシンガポールの能力を構築するために将来に備えた食品安全ハブ (FRESH)を開始する

NTU Singapore. Singapore Food Agency. and A*STAR launch Future Ready Food Safety Hub (FRESH) to build Singapore's capabilities in food safety science

27th April 2021

[https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/ntu-singapore-singapore-food-agency-and-a-star-launch-future-ready-food-safety-hub-\(fresh\)-to-build-singapore-s-capabilities-in-food-safety-science.pdf](https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/ntu-singapore-singapore-food-agency-and-a-star-launch-future-ready-food-safety-hub-(fresh)-to-build-singapore-s-capabilities-in-food-safety-science.pdf)

Future Ready Food Safety Hub (FRESH)は、国内外の研究所の食品、科学及び技術の専門家を集め、研究を共有し、新たなパートナーシップと協力を育むことを目的とする。

2. 表示及び包装情報—食品および栄養表示の理解

Labelling & Packaging Information — Understanding Food & Nutrition Labels

Wednesday, May 5, 2021

<https://www.sfa.gov.sg/food-information/labelling-packaging-information/understanding-food-nutrition-labels>

食品及び栄養表示に関する情報更新。以下のトピックについて詳しく説明されている。

- ・ 何故表示を読むべきなのか
- ・ 食品と業者の名前
- ・ 成分表示
- ・ 量
- ・ 産地
- ・ 栄養情報
- ・ 栄養と健康強調表示
- ・ 販売期限
- ・ 賢い消費者になるためのコツ

● その他

ProMED-mail

● 原因不明の死亡、ハゲワシ、イヌーネパール：(パラシ) 中毒疑い、情報求む
Undiagnosed deaths. vulture. dog - Nepal: (PA) poisoning susp. RFI
2021-04-27

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8331406>

Date: Tue 27 Apr 2021 08:11 NPT Source: Katmandu Post [edited]

パラシ地方 Jitpur of Ramgram Municipality Ward No. 4 で 2021 年 4 月 21 日にいろいろな種類のハゲワシ 67 羽が池の近くで死んでいるのが発見された。死因を調査中。

ハゲワシの死んでいたところにイヌの遺骸があって、予備的調査では中毒死したイヌの死体を食べたハゲワシが死んだことを示す。検体をカトマンズに送って調べている。地元では野犬の駆除作戦は行っていない。

Erekalert

- 有害フルオロカーボン類—スキーのワックスだけではない

Toxic fluorocarbons - Not just in ski waxes

26-APR-2021

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2021-04/nuos-tf-042621.php

—ノルウェーの新しい研究はこれら化合物が環境中どこにでもあることを示す—

近年スキーのワックスに含まれる PFAS が注目されているが、それは問題の一部でしかない。空港や湖から PFAS を検出したことを *Environmental Science: Processes & Impacts* に報告。Tyrifjord 湖は紙製品の工場からの排水で水底から検出。

- これら「BPA フリー」飲料ボトルは使う前に食器洗い機を通すこと

Pop those 'BPA-free' drinking bottles into the dishwasher before using them

29-APR-2021

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2021-04/uoc-pt042921.php

BPA フリープラスチックと宣伝されている Tritan ボトルを 10 種類購入して BPA が検出されるかどうか、リンスや洗うことで除去できるかを *Chemosphere* に報告。2 種類のボトルから BPA 溶出を検出し、それを取り除くには食洗機に何回かかけることが最も有効だった。

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室